



庄内公民分館体育祭



泉丘公民分館文化祭



高川公民分館の育成サークル  
「高川ソーランサークル」



上野公民分館の育成サークル  
「墨遊会」

多彩な  
催しで

地域のトを  
つなぐ

# 公民分館に

## 参加して

## みませんか？

豊中には全41小学校区に、だれもが気軽に参加できる、身近な学びと集いの場である「公民分館」があります。各分館のさまざまな講座や特色ある催しは、地域のひととの結びつきを生み、多くの人の生きがいづくりにつながっています。春の講座もまもなく始まります。この機会に、近くの公民分館を一度のぞいてみませんか。

(中央公民館)



# 公民分館って

市内には、中央(菅根東町)・蛍池(蛍池中町)・庄内(三和町)・千里(新千里東町)に4つの公民館があります。「公民分館」は、公民館活動をより身近な地域で取り組んでもらおうと設けられた全国的にも珍しい組織です。昭和24年(1949)に中央公民館の分館として設置した桜井谷公民分館が、その第1号。現在は市内全小学校区にあり、子どもから高齢者まで、地域のすべての人を対象とした生涯学習、文化活動、仲間づくりの場として活用されています。

分館を運営するのは、地域住民の皆さんです。市からの交付金を受け、校区の学校と連携を取りながら、その地域の住民を対象に催しや講座などを企画しています。

「分館」という名称ですが、独立した建物があるわけではありません。多くは、小学校の余剰教室が分館室として使われています。中には、学校内のコミュニティルームを地域の団体と共用しているところや、地区会館の一室を利用しているところもあります。

現在、公民分館では、地元中学生や高校生に分館行事への参加を呼びかけたり、ホームページを開設したりするなど、新しい取り組みが始まっています。

## 公民分館で行っている活動内容を、一挙ご紹介！

### 講座 サークル

### 生涯学習の「学びの場」

#### 公民分館講座

公民分館の主な活動の一つが、春と秋に開催している「公民分館講座」(募集案内は広報とよなか4月号・9月号に掲載)です。市に在住・在勤・在学の人ならだれでも受講できます。また、人権学習講座も開かれています。



制作活動や健康体操などの講座が人気。写真は野畑公民分館の「切り絵講座」

#### 育成サークル

趣味を通して集まったグループ、分館講座から生まれたグループなど、多数の市民サークルが、分館を拠点に思い思いの活動をしています。



桜塚公民分館の育成サークル、バレーボールを楽しむ「桜塚VC」

#### 社会見学

史跡や文化財をバスで巡る社会見学やハイキングなども人気です。

### 催し

### 地域ぐるみのコミュニティづくりにも一役

公民分館の活動は、個人の学びにとどまりません。それぞれの地域の実情にあわせて、人と人とのつながりを深める取組みを実施し、地域のコミュニティを支えています。

#### 体育祭

すべての分館で行われています。ソフトボールやニュースポーツなどを楽しむスポーツ大会を開いている分館もあります。

公民分館が中心となり、昨年9月に行われた「島田公民分館体育祭」



#### 文化祭

ほとんどの分館が文化祭を開いています。育成サークルが作品を展示したり発表したりします。模擬店が並ぶところも。

年2回、春と秋に開かれる「新田・新田南公民分館文化祭」。秋には菊の作品などが並びます



#### 夏祭り

たくさんの地域の人たちが参加できるお祭りを行っている分館も多くあります。

第一中学校(菅根西町)や大商学園高校(利倉東)の生徒も出店する「豊島北公民分館納涼大会」



#### 地域子ども教室

多くの分館が、休日などに小学生と大人が文化活動やスポーツを楽しむ「地域子ども教室」に取り組んでいます。

### 公民分館 問合せ先

問合せ

分館名

#### 北部

蛍池公民館  
☎6843-5561

桜井谷・蛍池・上野・熊野田・大池・克明・刀根山・箕輪・野畑・桜井谷東

#### 中部

中央公民館  
☎6866-0555

豊島・南桜塚・桜塚・小曾根・中豊島・原田・豊島北・豊島西・北条・緑地

#### 南部

庄内公民館  
☎6334-1251

豊南・庄内・庄内南・庄内西・野田・島田・千成・高川

#### 東部

千里公民館  
☎6833-8090

新田・北丘・東丘・西丘・東豊中・南丘・泉丘・東豊台・少路・寺内・東泉丘・北緑丘・新田南

# る、地域の輪

公民分館の中には、祭りやイベント、語り合いの場など、地域で独自の取組みをしているところもあります。それぞれが地域の人たちの結びつきを深める取組みとなっています。

## 人と人をつなぐ

祭りを通して  
子どもたちが  
いきいきできる場を



小春日和に恵まれた1月17日。日曜日の上野小学校(上野東)の校庭に、子どもたちの歓声が響きました。上野公民分館の「新春上野フェスタ」。今回で16回目を数える地域の催しです。

神社やお寺の境内のお祭りなど伝統行事に触れることの少ない子どもたちにその機会があったら、と始まりました。回を重ねるごとに、PTAや自治会、ボーイスカウト、ガールスカウトなど協力的な団体がどんどん増え、今では地域のすべての団体が参加するまでになりました。おかげで子どもたちに用意する遊びのコーナーも年々充実してきています。会場を練り歩いた獅子舞や豪快な和太鼓の演奏も、みんな地域の大人たちの猛練習の成果だそうです。

恒例行事の「とんど」では、各家庭から持ち寄ったしめ縄を燃やします。阪神・淡路大震災の翌年からは、災害時の炊き出しの訓練を兼ねた豚汁のふるまいも行われるように。お椀(わん)とほしを持って、待ち遠しそうに並ぶ子どもたち。豚汁をよそってもらい、「熱いから気をつけてね」と渡されると、「ありがとう」いただきます」と笑顔で答えていました。

「子どもたちと声をかけ合える地域にしたい」と分館長の渡邊美代子さん(上野坂)は言います。「こうした場で、地域の大人が一生懸命に頑張っている姿を見ることが子どもたちにとって大切な経験だと思います。自分が大人になっ



中豊島公民分館の気楽なしゃべり場「なかつ熟」



「新春上野フェスタ」では、長靴投げや吹き矢、羽根つきなど20種ほどの遊びが所狭しと並びました



上野公民分館の「新春上野フェスタ」。地域の大人が扮する「獅子舞」が登場

## 地域参加のきっかけ

熟年男性が  
地域で仲間づくり



たときに、自然に地域活動に入っていつてくれるようになる。実際に、上野では、1回目に参加した児童が保護者になって、フェスタを手伝ってくれているんですよ。学校を舞台にした、子どもたちが主役のイベント。お祭りを通して、さまざまな体験をしながら、大人と触れ合い、地域としっかりつながり、地域への愛着も育っているようです。

体育祭や文化祭などを除けば、平日に講座などが行われることも多い、公民分館活動。とすれば、参加は女性に偏りがち。しかし、地域には定年退職した男性も多い、地域に関心のある中年男性もいるはずと、男性をターゲットに新たな取組みが始まっています。

中豊島小学校(曾根東町)内に拠点を置く中豊島公民分館では、団塊・熟年世代を対象にしたサロン「このゆびとまれ なかつ熟」を原則毎月第2金曜日の19時~21時に、実施しています。地域での生涯学習と語り合いの場として、平成18年10月から続けられている活動です。

1月14日の「なかつ熟」には、6人の男性参加者が集まりました。このメンバーに女性2人を加えた8人が固定メンバーだとか。

毎回、健康や食などを中心にテーマを決め、話し合いのきっかけにしています。今回のテーマは「痛風の原因と対策」。進行役は、分館長の津田克裕さん(曾根東町)です。「用意した資料



# 公民分館からつながる、広が

を使ってテーマに沿った話をしますが、それは最初の20分くらい。後は意見交換したり、日ごろの思いを語り合ったりする『しゃべり場』です。続けてこられたのは、そんな気楽な場だったからだと思います」と津田さん。

テーマの話の後は、メンバーが入れるひき立てのコーヒーが楽しみの一つです。参加者の上坂勇さん(服部元町)は、「会社勤めをしていたときは仕事仲間がいて、交友関係もそちらが中心でしたが、退職すると付き合いの少ない地元では寂しくなることも。そういうときにこの会があってよかったです。仲間同士で語り合う中で、なるほどと学ぶこともありますよ」と話します。

「なかくて熟」は地域活動への参加の入り口にもなっている、と津田さんは言います。「この会を通じて、これまでは見えていただけだった人が、地域の夏祭りにボランティアの参加を申し出てくれたり、自治会の役員を引き受けてくれたり。そんな広がりが生まれてきたのはうれしいですね」。これからは退職する人たちにとっても、地域との付き合いを気楽な語らいの中で育ててくれる場になりそうです。

## 交流の広がり

「第九」を通して  
だれもが一つに



東豊台公民分館では3年前から毎年、東豊台小学校(東豊中町)の体育館で、ベートーベンの交響曲第九番「歓喜の歌」をドイツ語で合唱する「東豊台コンサート」を開催しています。



昨年の東豊台コンサートの様子。今年は第十五中学校(熊野町)吹奏楽部も伴奏に参加



東豊台コンサートの練習に励むメンバー。ソリストやピアノ伴奏は、大阪音楽大学(庄内幸町)の学生にお願いしています



中豊島コミュニティプラザに集まった「なかくて熟」のメンバー。3月にはボウリング大会も開かれます

「地域の中での子どもたちの居場所づくりが課題となっていた3年前。まずは大人たちが元気な姿を見せなければ、と始めた『おとなの教室』の一つが第九の合唱です。年末に各地で開かれている第九の演奏会を見て、第九にはチャレンジ精神や共感、感動を呼び覚まし、人を巻き込む力があると感じたのがきっかけです」と分館長の古八英之さん(東豊中町)。

参加者集めに苦労した1年目は、37人でのスタートでしたが、2年目は78人、3年目となる今年は106人と、参加者は年々増えています。初年はだれもが聞き覚えのある「歓喜の歌」のサビの部分だけだったのが、2年目からは全部歌っています。

参加者は半年にわたって、初心者14回、経験者7回の練習を重ねます。2月20日のコンサートに向け、1月23日には、同小学校音楽室で練習が行われました。練習時間は2時間。最初の40分は準備のストレッチ体操や発声練習が続き、ようやく歌の音合わせに。

メンバーは中高年層が中心ですが、男性参加者がかなり少ないのが悩みだそうです。しかし、今回は中学生の参加もあり、年齢の幅がぐっと広がりました。

「だれもが参加できる手づくりコンサートを通じて、世代交流や地域交流も広がっています。昨年は、分館のほかの活動にもいい波及効果があったと実感しています」と古八さん。「東豊台の活動に刺激されて、今後、他の地域の分館でも第九の合唱グループが生まれ、一堂に会して、豊中全体で大コンサートを開催するというのも夢ではないと思っています」。